

機関名	静岡県立大学	拠点番号	E18
申請分野	学際、複合、新領域		
拠点名称 (英訳名)	先導的健康長寿学術研究推進拠点 (Center of Excellence for Evolutionary Human Health Sciences)		
研究キーワード	〈研究分野：生命科学〉(健康と食生活)(生活習慣病)(炎症・免疫)(機能性食品)(タンパク質・糖鎖工学)		
専攻等名	生活健康科学研究科食品栄養科学専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー名) 木苗 直秀 他 23名		

## 21世紀COEプログラム委員会における事後評価結果

### (総括評価)

設定された目的は概ね達成され、期待どおりの成果があった

### (コメント)

先導的健康長寿学術研究推進拠点というプログラムは、静岡県という地域を健康長寿科学の中心として発展させること、それを保障する経済的・産業的基盤を構築すること、緑茶生産地を背景とした茶成分の効能に関する先端科学研究を進めること、などへの期待を受け、薬学研究科と生活健康科学研究科の融合によるユニークで世界のオンリーワンとなることを目指すプログラムとして、採択されたものである。しかし、研究基盤の構築が遅れたこと、世界トップクラスのレベルに達している業績は数が少ないこと、などのために、食品の機能性、安全性に関する世界的な情報発信や、ユニークでオンリーワンの健康長寿学に関する成果を上げるという所期の拠点形成目的の達成には、一定の成果は見られるものの、まだ到達しているとは言えず、更なる努力が期待される。

研究活動面については、「事業結果報告書」を見る限りにおいて、5年間に提出された主な論文には、本課題で繰り返し述べられている食品成分の機能性とその効能に関するものが少なく、各研究室で行われてきた従来どおりの研究成果のうち、インパクトファクターの高いものが集められ、従って、拠点形成に関連する成果が少ないように見受けられた。しかし、現地調査の結果では、緑茶や植物抗酸化物質の機能研究において一定の成果を上げ、その一部は論文として発表されていることが認められた。

また、突出した研究者と、大学全体の競争的研究資金の獲得額が少ないために、継続して拠点形成を行うには、この問題を克服する長期的な大学の方針が必要である。

人材育成面については、栄養科学と薬学の融合・連携が、若手研究者や大学院学生のモチベーションを上げ、ユニークな教育プログラム、研究指導体系ができ上がり、成果を上げており、この点は高く評価できる。